

児童自立生活援助事業（自立援助ホーム）に関する次の記述のうち妥当なのはどれか。

1. 自立援助ホームは、経営安定を通じた利用者の保護の必要性が高い第一種社会福祉事業である。
2. 「児童養護施設入所児童等調査の概要（平成30年2月1日現在）」によると、自立援助ホームの利用期間は、1年未満が最も多く、利用者全体の約60%を占めている。
3. 自立援助ホームの対象となるのは18歳未満の者であり、19歳以上の者は入所できない。
4. 自立援助ホームは、被虐待経験者はほとんど利用していない。
5. 自立援助ホームの利用者は、15歳以上の者が多いため、児童相談所や司法関係機関などとの連携は特に必要ない。

子どもの一般的な発達と保育者の関わりに関する次の記述ア～オのうちには
妥当なものが二つある。それらはどれか。

- ア. 3か月頃から、あやしかけなどへの反応として「生理的微笑」が見られるようになるため、保育者は子どもの情動に自らの情緒を調節させて関わるようにする。
- イ. 1歳3か月頃には、着脱を自分でしようとするなど自分でやりたいという欲求を持つようになるので、保育者は子どもの自分でやりたいという気持ちを大切にす。
- ウ. 2歳頃になると、子ども同士で遊びのルールを考えられるようになるので、保育者は子どもたちが互いに認め合えるクラス作りをしていくようにする。
- エ. 4歳頃になると、何か欲しい際に「～ちゃんも」と自分の名前を使ったり、自分の所有物を「～ちゃんの」と自己主張したりする姿が見られ始めるため、保育者は子どもの思いを丁寧に受け止めることが重要である。
- オ. 6歳頃になると、物を配列したり、空間を頭の中で描いたりしてイメージを作り上げるようになるため、保育者は作り上げたときの充実感や達成感を得られるような環境を整えるようにする。

- 1. ア, イ
- 2. ア, エ
- 3. イ, オ
- 4. ウ, エ
- 5. ウ, オ